

埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN
NIIGATA

2020 Mar.

第110号

発掘
調査遺跡
紹介

村上市上野遺跡・企画展・少年少女考古学教室案内



上野遺跡出土品の復元作業 2020年3月

25 G 5



2019年度
発掘調査
遺跡の紹介

上野遺跡Ⅲ

—縄文時代後期の大集落—

所在地：村上市猿沢・桧原地内

上野遺跡は国道7号朝日温海道路の建設に伴って2017（平成29）年度から発掘調査しており、3回目の今年度は6,025㎡の調査が終了しました。遺跡は高根川右岸の西から東へ緩やかに下る丘陵裾部に立地し、遺跡中心部の標高は約35～39mです。昨年度（2018年）の調査区（今年度調査区の北側）では、縄文時代後期前葉（約4,000年前）の居住域と廃棄場が見つかりました。今年度の調査でも土器・石器・土製品・石製品など多くの遺物が見つかり、収納箱（内寸 54×30×10cm）で約300箱も出土しました。

出土品は新潟県に広く見られる後期初頭から前葉の三十稲場式と南三十稲場式の土器が主体で、時期幅が少なく当時の道具立てを知るうえで参考になります。このなかには小型土器の装飾（ハート形顔面突起）や赤塗りの土製垂飾品など、希少な遺物も出土しています。

遺跡は居住域や廃棄場がある集落部と、土石流などが堆積した砂礫部とに大きく分けることができます。今年度は砂礫部の調査が主体で、集落部は一部を調査しました。集落部には縄文時代後期の遺物包含層が4層（面）存在し、一番上の層から石囲炉、土坑、集石土坑、埋設土器などの遺構が見つかりました。

縄文時代後期の砂礫部は、集落部と比べて一段低くなっており、その後の土石流や河川などで運ばれた土砂（砂礫）によって、完全に埋没していました。この厚い砂礫層は、長期間に渡って繰り返し堆積したものと思われます。縄文時代後期の

遺物が多く含まれているので、居住域や廃棄場を巻き込みながら流れてきたことが分ります。

この砂礫部でも少数ですが、土坑1基、フラスコ状土坑1基、埋設土器1基などが見つかりています。砂礫が繰り返し流入する中でも一時的に安定した時期があり、その間の活動痕跡と思われます。

この砂礫部の堆積は、集落の廃絶後に形成された部分も多く、堆積時期については検討が必要です。遺跡全体から地震痕跡も多く認められ、地形の形成を考える上でも重要な遺跡と考えています。

（石川智紀）



遺跡遠景（南東から）



土製垂飾品とハート形顔面突起



砂礫部のフラスコ状土坑 断面（南から）



砂礫部の堆積状況（南西から）



2019年度
発掘調査
遺跡の紹介

古屋敷割遺跡

—古代から中世の集落—

所在地：上越市三和区上広田字古屋敷割

古屋敷割遺跡は高田平野の東部、保倉川の支流である桑曾根川と飯田川のほぼ中間に位置しています。沖積地の微高地上に立地し、標高は13~14mです。調査面積は11,027㎡で、4月から11月まで発掘調査を行いました。

調査区は細長く、その中央を農道が縦断しており、この農道から南西側を1区、北東側を2区と呼んでいます。両区から、平安時代を中心に、古墳時代から室町時代にかけての遺構と遺物が見つかっています。

もっとも古い遺構は、2区で見つかった全長120m以上ある古墳時代後期の溝です。水路と考えられるもので、当時、1・2区を斜めに横断するかたちで流れていた河川から取水していた可能性があります。なお、同河川からは須恵器 甕が2点出土しています。

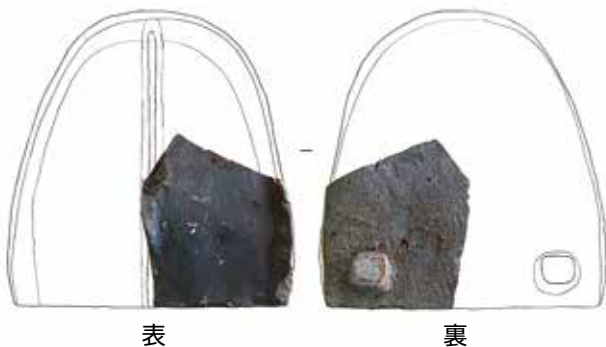
平安時代には集落が営まれ、掘立柱建物4棟のほか、柵・井戸・土坑・ピット・溝などがありま

す。特殊な遺物として、平面形が風の字の構えに似ている須恵器製の硯（風字硯）が1点出土しました。また、2区のピットP145からは中世の土師質土器小皿を二つ合わせ口にしたものが出土しています。小皿の口はピッタリと合わさっており、中には何か入っていた痕跡があります。地鎮などの祭祀で使われたものと考えられます。

鎌倉～室町時代の建物は見つかっていませんが、井戸やピットなどがあることから、これらは隣接して存在する集落の一部であると考えられます。

1・2区のほぼ全域から、調査区を縦横断して延びる直線的で長い溝が多数見つかっています。これらの溝群は、古墳時代から室町時代にかけて造られたもので、そのほとんどが灌漑用水として幹線水路や支線水路といった遠くへ水を引くためのものである可能性が考えられます。

(株式会社ノガミ 湯原勝美)



風字硯 復元推定図



ピットP145 土師質土器合わせ口 出土状況



調査区全景（南東上空から） 左が1区、右が2区



埋文
コラム

ひぜんとうじ
肥前陶磁

肥前陶磁は、肥前国（現在の佐賀県と長崎県の一部）で作られた焼き物で、大きく陶器と磁器に分かれ、陶器は唐津焼、磁器は伊万里焼と呼ばれてきました。これは、積み出し港にちなんでつけられた呼び名と考えられます。

陶器は粘土を原料とするのに対し磁器は陶石と呼ばれる白く硬い石を砕いた粉が原料です。陶器の素地は吸水性があるのに対し、磁器は吸水性がありません。また陶器に比べ磁器は硬く耐久性があり、薄手のものが多く見られます。

唐津焼は、西暦1580年頃（安土桃山時代）に朝鮮半島から技術が伝わり、生産が開始されました。椀・皿・鉢・すり鉢・茶入れ・瓶・壺・甕など多様な日用品が作られました。

安土桃山時代の終わりから江戸時代初め（16世紀末～17世紀初め）にかけて唐津焼の窯は増加し、肥前国は東海地方の瀬戸・美濃と並ぶ陶器の一大生産地になりました。

この頃の唐津焼の主な流通圏は西日本と東日本の日本海側で、新潟県からも多く出土します。この地域は、鎌倉時代から室町時代にかけて中国から輸入された陶磁器を多く使用していた地域で、唐津焼が大量に流通するようになると中国からの陶磁器の輸入は減少しました。

伊万里焼は唐津焼よりやや遅れて江戸時代初め（1610年代）に生産が始まります。国内で初めて作られた磁器が伊万里焼です。椀・皿などの食器

類や瓶・壺などが作られました。呉須（主成分はコバルト）と呼ばれる青く発色する顔料を用いて模様をつけたものが多くみられ、17世紀中頃以降には赤・緑・黄色で彩色するものも作られるようになりました。

17世紀中頃になると伊万里焼の生産が拡大し、日本各地に広く流通するようになります。椀や皿などの食器の多くは唐津焼や瀬戸焼・美濃焼などの陶器から伊万里焼（磁器）へ変化しました。

伊万里焼の生産拡大の背景には、窯の大型化、重ね焼きや窯詰め方法、装飾技法の工夫などの生産技術の変化のほかに、佐賀藩により、寛永14年（1637）に行われた、伊万里・有田地区の窯場の整理・統合がありました。

これは、陶器生産者が山を刈り荒らすことを防ぎ、陶器よりも価値が高い磁器生産の保護を目的としたものと推測されます。

また、伊万里焼は日本国内だけでなく、当時長崎にあったオランダ商館などを通じ、ヨーロッパへも多く輸出されました。

肥前陶磁（唐津焼・伊万里焼）は新潟県埋蔵文化財センター常設展示でご覧いただくことができます。

（春日真実）

参考文献 大橋康二1989『考古学ライブラリー55 肥前陶磁』

ニューサイエンス社



唐津焼（右手前の皿が口径12cm）



伊万里焼（右手前の皿の口径13.5cm）



埋文
インフォ
メーション

令和2年度春季企画展
縄文の巨木柱とマツリー糸魚川市 寺地遺跡一

縄文時代晩期の巨木柱と配石遺構はいせきいこうが見つかった
いる糸魚川市の国史跡・寺地遺跡てらじ。巨木柱の周囲
から大量のヒスイや焼人骨しょうじんこつなどが出土し、特殊な
マツリが行われていたと考えられます。

本展では、有柱方形配石内の巨木柱や石棒せきぼう、
遮光器土偶しゃこうきどぐう、赤漆塗りあかうるしぬ 堅櫛たてぐし、ヒスイ、磨製石斧ませいせきふの
ほか、縄文時代では県内2例目となる丸木舟を展
示し、寺地遺跡の魅力に触れていただきます。

◆ 日 時：令和2年4月10日(金)～8月23日(日)
9：00～17：00 ※観覧無料

◆ 会 場：新潟県埋蔵文化財センター

■寺地遺跡シンポジウム (定員100名)

◆ 日 時：6月14日(日) 10：00～15：30

◆ 内 容：国史跡寺地遺跡

－ 謎に包まれた大遺跡－

小池悠介 氏 (糸魚川市教育委員会)

寺地遺跡の木柱の樹種と暦年代

木村勝彦 氏 (福島大学)

寺地遺跡の巨木柱と丸木舟

荒川隆史 (当センター)

寺地遺跡からみた縄文の儀礼

長田友也 氏 (中部大学)

パネルディスカッション



配石遺構 (提供：糸魚川市教育委員会)

■関連講演会 (定員80名)

◆ 時 間：13：50～15：20

7月5日(日) 「土器から見た

縄文時代晩期の糸魚川

渡邊裕之 氏 (文化行政課)

8月23日(日) 「新潟県における

縄文時代の漆工技術と寺地遺跡」

三ツ井朋子 氏 (文化行政課)

※申し込み不要、当日定員になり次第締切

※手話通訳、要約筆記をご希望の場合開催日の
1か月前までにご連絡ください。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため計画
変更の可能性があります。詳細は当センターに
お問い合わせください。

少年少女考古学教室(全4回)で発掘体験！

少年少女考古学教室で遂に発掘体験ができる！
令和2年度から内容をリニューアルし、遺跡の魅
力を学ぶ本格的な教室が始まります。本物の縄文
土器に触れ、遺跡を発掘し、土器作りなどの体験
をします。学んだ成果を埋蔵文化財センターで発
表し、展示します。考古学者を目指そう！

第1回 6月28日(日) 9：30～15：00

「縄文時代はどんな時代？—土器作り体験—」

第2回 8月21日(金) 9：30～16：30

「遺跡に行こう！発掘体験と縄文ポシエット作
り体験」

第3回 10月18日(日) 9：30～15：00

「縄文人の技を体験しよう！石斧・土器煮炊き
体験」

第4回 12月6日(日) 9：30～15：00

「まとめ発表会—展示準備をしよう—」

展 示 会 12月6日(日)～1月11日(月)

◆ 対 象：小学4年生～中学3年生の25名

◆ 条 件：全4回に参加する方。参加費無料。

◆ 申込期間：5月1日(金)から定員になり次第締
切。

◆ 申込方法：氏名・学年・住所・電話番号を添
えて当センターまでお申し込みく
ださい。

◆ 電 話：(0250) 25-3981

◆ F A X：(0250) 25-3986

◆ メ ー ル：niigata@maibun.net



県内の
遺跡・遺物
108

今井城跡

平成25年3月26日 新潟県指定史跡

遺跡所在地：津南町上郷大井平字城

遺物保管：津南町

津南町の今井城跡は、信濃川右岸の標高430mの段丘の先端にあり、信濃川との比高差はおおよそ200mで、川側から見上げれば高くそびえる山城を呈しています。けれども、南側は平らな段丘面が広がっています。遺構は南北およそ200m、東西約150mの実城、二の郭、橋台、馬出、空堀、土塁、畝形阻塞（畝状堅堀）で構成される中世の城跡です。地元では平安時代末期、木曾義仲の四天王の一人、今井兼平によって築城されたという言い伝えがあります。

現在、見ることができる城跡の縄張りの様子から鉄砲伝来以後の戦国時代末期（約450年前）頃の城跡と考えられています。その残りの良さから、平成25（2013）年、新潟県史跡に指定されました。

平成27年度から保存整備活用のために範囲確認調査を継続して実施しています。その結果、馬出部分は、改変や埋まっている状況が確認されました。また、段丘面をそのまま平らにしたのではなく、一度、赤土まで削り平らにし、そこから黒土と赤土を交互の積んで作られていることが分かってきました。また、いくつかの溝や柱跡が確認され、作り直しが行われていることも確認できました。

出土遺物は少ないながらも石臼、砥石、陶磁器

片、るつぼ、鉄滓が出土しました。るつぼなどから何らかの金属加工が行われていたと考えられます。また、陶磁器片の中には15世紀末から16世紀初めの瀬戸美濃焼があります。瓶類片は15世紀終わり～17世紀の可能性がありますが、これらの遺物から本城跡は、戦国時代初期から戦国時代末期まで利用された可能性があります。

そして馬出の形状から、上杉氏に連なる城跡と考えられてきましたが、武田氏領となり改変が行われた可能性も指摘されています。

中世は、館の裏山などに山城を配置すると考えられますが、津南町の赤沢城跡と赤沢館跡の位置関係は異なり、今井城跡の場合も館跡の場所は不明ですが、異なる位置関係が考えられます。また、赤沢城跡からは、建物跡が確認されており、今井城跡においても同様の可能性があります。

このように、今井城跡は大変重要な遺跡ですが、まだ判明していないことが多くあり、今後も範囲確認調査を継続していく予定です。

今井城跡へは、JR飯山線津南駅から車で25分（10km）です。城跡の詳細は津南町教育委員会文化財班（025-765-2299）までお問い合わせください。（津南町教育委員会 佐藤信之）



今井城跡遠景



石臼出土状況



埋文にいがた 第110号 令和2年3月26日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL:(0250)25-3981 FAX:(0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: http://www.maibun.net/



『埋文にいがた』のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。上の URL からご確認ください。